



社の便い

やすらぎの杜が 20周年を迎えました



創立20周年おめでとうございます。

「やすらぎの杜」が晴れやかに今日のこの日を迎えられたのも、ご利用者とご家族の皆さん、地域の皆さん、ボランティアや関係機関の皆さん、そして日々研鑽に励んでいる職員のお陰様です。心より御礼申し上げます。

「やすらぎの杜」は、楽しく生きる『生活の場』、社会参加を目指す『仕事の場』、社会的自立のための『教育の場』、そして自己の可能性を発育する『文化想像の場』が、互いに補完・共鳴しながら成長して参りました。

『生活の場』は、入所されるご利用者にとっては親元を離れて生活する初めての経験になります。ご本人もご家族も不安だったでしょう。初日は3名からのスタートでしたが、3名ずつ入所者を増やしていきましたので、そこからの数ヶ月はテンヤワンヤの毎日でした。振り返ってみますと、このときの経験が施設全体の支援力を高めてくれたのです。

『仕事の場』の授産部門も初日から数名でスタートしました。パン工房もこの日から試行錯誤の毎日が始まりました。現在の授産の形態も初日からの積み重ねでできあがったものです。

『教育の場』は、ご利用者の生活力と作業能力を高めるだけでなく、日々の生活は職員をも教育してくれました。ご利用者の笑顔が毎日の元気の源に成り、困難なことを乗り越える強い精神力も養われ、毎日新たな気づきをくれました。事実こうして成長させてもらった職員は各地でリーダーとして法人全体を牽引してくれています。

『文化創造の場』は、そもそも当法人は、天才と言われた放浪の画家・故山下清さんを世に出すという活動に関わったことがきっかけで生まれており、人間の可能性を追い求めるというDNAがあります。創造とは形あるものを作り出すことばかりではなく、安心して過ごせる施設の生活を生み出すのも創造ですし、新しい仕事を作り出すのも創造ですし、絵画や陶器など美術作品によって世に潤いを与えるのも感動の創造と思っています。

これまでの軌跡は枚挙にいとまがないのでこの辺りで止めて、地域の方々について述べておきます。

今を遡ること20数年前は、民間法人が都内で入所施設を建設することは不可能と言われていました。当法人も練馬区内で建設用地を探していましたが、なかなか地域の同意を得ることができず苦戦しておりました。

ところがこの関町の土地は違っていました。なんと地域をあげて施設建設に賛成して下さったのです。このときの地域の方々のご協力には感謝の言葉しかありません。職員は決してこの事実を忘れてはなりません。

社会一般に20年と言えば成人です。新たな生活を始める門出でもあります。しかし今後進むべく福祉の世界は、ここ数年のコロナ蔓延や世界的なインフレで茨の道が予想されます。でも安心してください。「やすらぎの杜」の皆さんなら楽々乗り越えられます。残念ながら今日のこの日に立ち会えなかった故馬場八重子元施設長は、「私が育てた職員たちだから何が起きても大丈夫。」と空の上から安心して見守ってくれています。

大船に乗った気持ちで、自信を持って新たな創造に向けてばく進してください。

期待しています！

社会福祉法人章佑会
理事長 馬場 康雄

パン工房ドゥーコンディショナーの更新

中央競馬馬主社会福祉財団の助成により、ドゥコンディショナーを新しくすることができました。

「ドゥコンディショナー」とは、パン生地の発酵管理に特化した温度・湿度制御機器です。①生地を冷凍保存②生地を解凍しながら発酵を制御③徐々に生地を温めて発酵を促進④最終発酵までを自動で行います。以前まで使っていた機械は、経年劣化による故障が目立ちました。生地の発酵が想定と変わると、焼き具合やパンの味にも影響が出ていました。

今年1月の販売分から、新しいドゥコンディショナーが稼働し、想定通りに生地が発酵できるようになりました。更においしくなったパン工房の商品をお客様にお届けしていくことが、利用者の夢や希望、やりがいにつながりますし、中央競馬会馬主福祉財団や馬主様、皆様の願いにも応えられるよう、やすらぎの杜一同がんばっていく所存です。この場を借りて「中央競馬会馬主福祉財団様」「馬主様」に感謝申し上げます。



※中央競馬馬主社会福祉財団とは
中央競馬の馬主の間で、自分たちの手で、かつ目に見える形で社会福祉に貢献したいという機運があり、これに併せて競馬に対する社会の認識を高めることを目的として、競馬賞金の一部を自主的に拠出することにより、昭和44年10月に財団法人中央競馬社会福祉財団（現 公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団）が設立されました。（東京馬主協会ホームページより）

陶芸用電気釜の更新

陶芸作品作りでは、素焼き・仕上げ焼きの工程があります。特にアート活動PoMAが始動してからは、陶芸用電気釜も大活躍しています。令和5年のNHK歳末たすけあい（赤い羽根共同募金）の助成をいただき、陶芸用電気釜を新しくすることができました。

ここ数年は電気釜が老朽化し、焼きムラが発生し商品ロスが増えていましたが、制作作業がスムーズに行えるようになり、商品ロス率の低下はもちろん、プログラム通りに焼き上げることで商品品質を向上させることができました。新しい陶芸窯で更にレベルアップした陶芸作品をお届けしていきたいと思ひます。皆様の善意に感謝申し上げます。ありがとうございました。



（NHKニュースより）

～編集後記～

緑がまぶしい季節になりました。やすらぎの杜20周年ということで、めでたい話題で杜の便りはスタートです。コロナウイルスで施設行事も減り、おのずと杜の便り発行も減っていましたが、これからは定期発行に戻していけたらと思っています。次号も暖かく見守っていただけると嬉しいです。 広報委員：小林(も)

〈法人理念〉
あらゆる人に
生きる夢と勇気と希望を提供する



杜の便り 第49号 発行日/令和6年5月15日 発行者/社会福祉法人章佑会やすらぎの杜 編集/やすらぎの杜広報委員会
〒177-0051 練馬区関町北5-7-10 TEL03-3928-3315 FAX03-3928-3310